

## TIE

## 悪いネクタイの見分け方

ネクタイの両端を両手で広げてひっぱってください。中心の部分がクルッとよじれるのはよくありません。これは芯地や縫製が悪いか正しいネクタイ生地（伸びてしめやすくするため）が狂っているためです。この種のものには、締めた結び目が、いくら直しても右か左へ曲がってしまいます。生地が薄いのをカバーするために、裏に糊加工などしているネクタイがあります。こんなネクタイはギュッと握ってみると、小指ワができてなかなか元に戻らないので、すぐ判ります。

## TIE

## ネクタイの選び方

タイを選ぶについて大切な条件の一つは布地のすべりが良いものを選ぶことが上げられます。すべりが良いほど、美しい結び目がつくれるからです。ウール地では、トロピカル、ウーステッドなどの薄地が適しています。ウールの網タイは結び目がふくらむ難点がありますが、カジュアル感覚のジャケットなどにはぴったりのオシャレなタイです。

又、柄よりも色に重点を置いて選ぶことも重要です。大胆で派手なものを買ったつもりでもいざ締めてみると案外地味な感じになることにびっくりしたことはありませんか？派手な柄物を買うときは「これはすこし派手過ぎるかな」と思う程度のもを選ぶと良いでしょう。

ネクタイは普通、服の色に対して反対色、すなわち対照色を選ぶのが一般的です。

体格によっても選ぶポイントがあります。大柄の人は小柄の派手なネクタイが良く似合い、茶系統の中柄や小柄な飛び模様などもあうでしょう。小柄な人は小柄や大柄は避けて、派手目な中柄系統をこなしたほうが引き立ちます。

## TIE

## ネクタイの手入れのポイント

織物のネクタイは、しわになった部分に裏から軽くスチームアイロンをあてハンガーに吊るします。プリントものは、小剣の方から巻いて保管してください。

クリーニングはどの素材もドライクリーニングが一番です。ただしシルクの場合、頻繁なクリーニングは風合いを損ねることもあるので、汚れはこまめにベンジンで拭くようにしてください。絹織物の剣先が毛羽立ってきた時は、ライターの火で軽くあぶるときれいになります。ただし、火を強く当てすぎないように充分注意してください。

ネクタイは毎日締める事が多いので手入れをしないとすぐにだめになってしまいます。ネクタイの替えが多ければ多いほど長持ちします。又、お気に入りのネクタイを長く持たせたいときには、ツギ目（手縫）をはずしてアイロンをかけ、タンスの中に保存しておけば、2～3年は持ちます。

## TIE

## ネクタイの種類

ネクタイは種類だけではなく幅、細いもの、先がとがっているもの、四角いもの。それらにもすべて名前がついているのです。

**ワイド・タイ** 10センチ以上の幅広のもの。

**ダービー・タイ** 8.5～9センチのもの。レギュラー・タイとも呼んでいます。

**ナロー・タイ** 4～6センチと狭いもの。

**ストレート・シェーブ** 真っ直ぐ直線を描いている。

**タワー・シェーブ** 結び目が細く剣先に向かって広がったタワー（塔）の形に似たスタイル。

**セミボトル・シェーブ** 中接部分に若干のくびれがあり、剣先までは直線続くスタイル。

**ボトル・シェーブ** フロント中央部分が瓶の形の様にふくらんだスタイル。

**角タイ** 幅タイのヴァリエーション。剣先の先端が、水平にカットされた結び下げスタイルのネクタイ。

**カット・タイ** 先端を斜めにカットしたスタイル。

**テーパー・タイ** 線が無く、すべて丸みを帯びたネクタイ

**アスコット・タイ** フロック・コートやモーニング・コートに用いるスカーフ様の幅広のタイ

貴方のネクタイはどれですか？

## TIE

## アスコットタイとは

アスコットとは、英国はロンドン近郊、パークシャー州アスコット・ヒースにある有名な競馬場。1711年以来、毎年6月に国王の臨席のもとに開かれるアスコット競馬に、1850年頃あらわれたのが、英国伝統のアスコットモーニング＆アスコットタイです。そして当初の幅広スカーフ状のものから、現在のアスコットタイの形になったその影には、我々日本人の知恵と工夫がありました。

文明開化は明治の初め、フロックコート等と共に伝来したアスコットタイは、日本人にとって、実に扱いにくい代物でした。およそ幅2寸余り、長さ5尺程の「ネッキタイ」なる衿飾りは、御雇い外国人の様にうまく結べませんでした。出仕、会合に遅れる事たびたび...そこで、ある知者が、結んだ形にして紐を縫い付け、首の後ろで縛りました。

広げた形が、漢字の「又」の字に似ていましたので、「又の字」と呼ばれ一世を風靡しました。

これは便利と言う事で、1920年代には世界中に広まりました。その後、長さ調節の金具や留金が、用いられる様になり、現在の形になりました。

そして欧米でも本来の形のアスコットタイは、1945年、第二次世界大戦を境に、完全に姿を消しました。

カジュアル用のアスコットスカーフ（パフタイ）と、アスコットタイを混同、勘違いしてしまった平成の日本に、日本人の考案による本物のアスコットタイ「又の字」が、100年ぶりに戻って来ました。タキシード会議のアスコットタイは、グローバルスタンダード（世界基準）の確かなフォーマルです。

御注意：日本で売られているアスコットタイの殆どは、世界の多くの人々がアスコットスカーフ（パフタイ）と呼んでいるもので

す。これは、1870年代にアスコットタイの結び方から、派生したカジュアル品です。正礼装に用いる事は、決して有りません。

## TIE

### 世界の“ネクタイ”の呼び方

ネクタイ(Necktie)は米語ですが、現在はタイ(Tie)と短い言葉で表現されることが多くなっています。業界内部ではネックウェア(Neckwear)を好んで使っているようです。主な国のネクタイの呼び名を紹介しましょう。

アメリカ・・・ネクタイ(Necktie)      ボルトガル・・・クラヴァータ (Gravata)

フランス・・・クラヴァット(Cravate)      イタリア・・・クラヴァッタ (Cravatta)

ドイツ・・・クラヴァッテ (Krawatte)      スペイン・・・コルバータ= (Corbata)

ネクタイの老家、クロアチアとフランスに敬意を表してか、Cravateを語源としています。当時の男性の間ではカツラをかぶることが流行していました。そのカツラが次第に大きく派手になるに従って幅が広がった衿が廃れ、衿無しのロングコートが新たに登場してきました。クラバットはこの衿無しコートの首もとを飾るのに相応しいものとして用いられたのが、普及に拍車を掛けた形になりました。クラバットの素材はシルクなどの柔らかく肌触りの良いもので、中には精巧なレースをあしらったものもありました。首に2度巻いて1度結び、余った端を垂らす巻き方が採用されていました。ネクタイというよりスカーフという方がピッタリのしろものでした。

## TIE

### ネクタイの秘密

あまり知られていないことですが、一目でネクタイに合うスーツを知ることが可能な方法があります。ネクタイの裏地を見てください、この色がそのネクタイに合うスーツの色なのです。・・・そうです、ネクタイの裏には、デザイナーの粋な意図がひそんでいたのです。